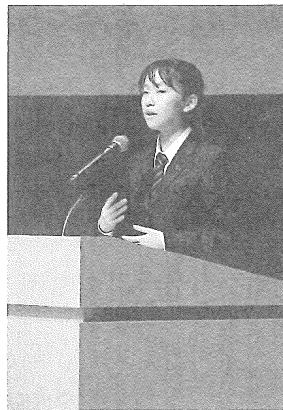


市民タイムス

生きた英語に感情込め

松本秀峰 4年生スピーチコンテスト

(第3種郵便物認可)



表現豊かに英語でスピーチする生徒代表

松本市埋橋2の松本秀峰中等教育学校はこのほど、同市深志3のまつもと市民芸術館で第12回4学年スピーチコンテストを開いた。4年生86人から生徒・教諭による審査で選ばれた代表12人が主ホールのステージに上がり、生徒や教員、保護者の前で英語でスピーチし表現力などを競った。

スピーチは1人4〜5分程度で、リーダーの資質やこれまでの経験・学び、国際社会での活躍に向けた意気込みなど大枠のテーマに沿った内容をそれぞれ語る。発音・イントネーション、話し方、声量、アイコンタクト、発表内容の5項目について、参加者みんなが各5段階評価の投票用紙で審査する。

生徒たちは、英語を滑らかに発音するだけでなく、身ぶり手ぶりも駆使して生き生きとした表情で熱っぽくスピーチしていた。

例年、秋の文化祭・秀峰祭の一環で校内で実施していたが、新型コロナウイルスの影響で昨年初めて会場を分け、今年は会場に加え、今年も変えて催した。

(小岩井貴之)